



穂別博物館 2011 夏季特別展

歯のかたち

開催中

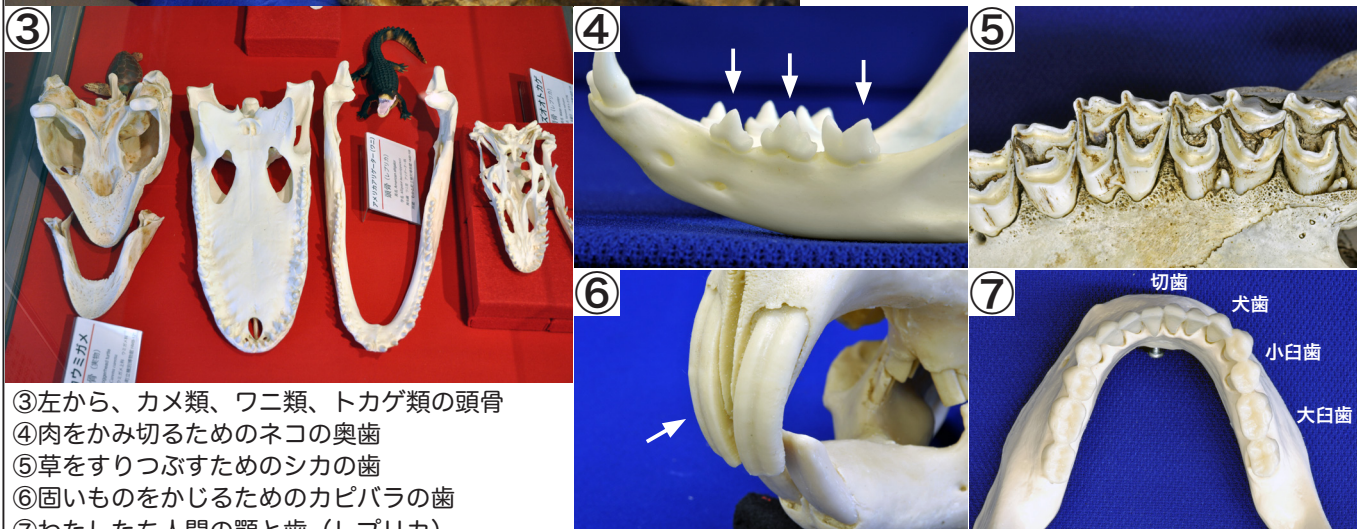
(～10月30日)

- クビナガリュウ vs モササウルス -

絶滅してしまったクビナガリュウやモササウルスが何を食べていたのか、どのようにして分かるのでしょうか？ 動物の歯は、食べ物や使い方によって、どのように違うのでしょうか？ わたしたち人間の歯の特徴は何でしょうか？ そもそも歯は何のためにあるのでしょうか？ これらの答えをさがしに博物館へ来てください。
(学芸員 桜井)



①クビナガリュウ（奥）とモササウルス（手前）の歯の形や食べていたものを比べてみよう
②モササウルスなどの歯の化石やレプリカ



③左から、カメ類、ワニ類、トカゲ類の頭骨
④肉をかみ切るためのネコの奥歯
⑤草をすりつぶすためのシカの歯
⑥固いものをかじるためのカビバラの歯
⑦わたしたち人間の顎と歯（レプリカ）

展示協力 札幌市博物館活動センター 札幌市円山動物園 苫小牧市博物館

「最古の恐竜展」にて講演 (8/24) 「地球最古の恐竜展」(NHK 札幌放送局ほか主催) が札幌で開催中です。8月の毎週水曜日は道内の古生物専門家による講演が予定されています。

①デスモスチルス 澤村寛 (足寄動物化石博物館) ②カイギュウ 古沢仁 (札幌市博物館活動センター) ③アンモナイト 栗原憲一 (三笠市立博物館) ④クビナガリュウ 桜井和彦

興味のある回にぜひ参加してみてください。詳しくは公式サイトなどでご覧下さい。(学芸員 桜井)

クリーニング中のモササウルス標本

ホッピーだより No.313 で紹介したモササウルス標本のクリーニングが進展しています。ミニ展示「モササウルス新規資料展 第1回 (4/29～5/8)」の展示とクリーニングの進展状況は以下の通りです。



モササウルス新規資料展 第1回の展示



モササウルス新規資料 (主に背面観で展示)

左側面観



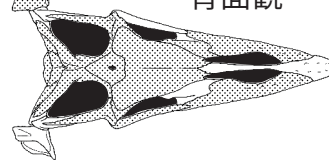
右側面観



腹面観 (下顎を除く)



背面観



産出していると思われる頭骨の部位：ドット 空洞部：黒

昨年末の段階では、当標本は頭骨の約半数ほどの骨要素が保存されていると想定していましたが、クリーニングの進展によって、それ以上の部位が保存されていることが分かってきました。この標本は頭骨の約7割に当たる部分と、6つの頸椎、肋骨などが保存されています。国内第一級の標本であるタニファサウルス・ミカサエンシス（エゾミカサリュウ、天然記念物、三笠市立博物館所蔵）や沼田町産のモササウルス（属種不明、沼田町化石館所蔵）においても、化石として保存されているのは頭骨の3～4割程度であることから、当標本の保存されている部位数が極めて豊富であることが分かります（小西卓哉博士私信）。この標本をミニ展示「モササウルス新規資料展 第2回」として8/6から8/21まで一時的に展示します。また、冬季に小西博士（カナダ王立ティレル博物館）がこのモササウルスの研究のため1週間ほどの予定で穂別に来られます。来館期間中に小西博士によるモササウルスに関する普及講演会も予定しています。これらの予定が決定次第、ホッピーだよりでお知らせします。

【アクセス】



【利用案内】

開館時間 9:30~17:00 (最終入館 16:30)

入館料 個人 / 小～高校生 100円

大人 300円

団体 / 小～高校生 50円

大人 200円

※団体は10人以上 ※小学生未満は無料

休館日

2011年8月

8月は無休です

2011年9月

5(月) 12(月)

20(火) 21(水)

26(月)